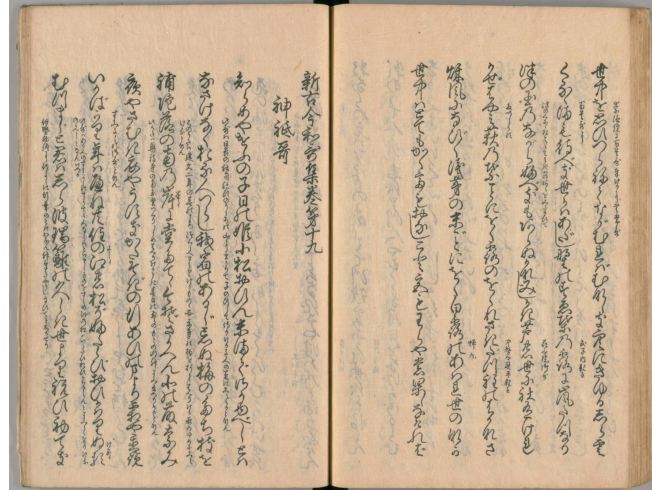


日本中世における歴史書と歌論書の関係について

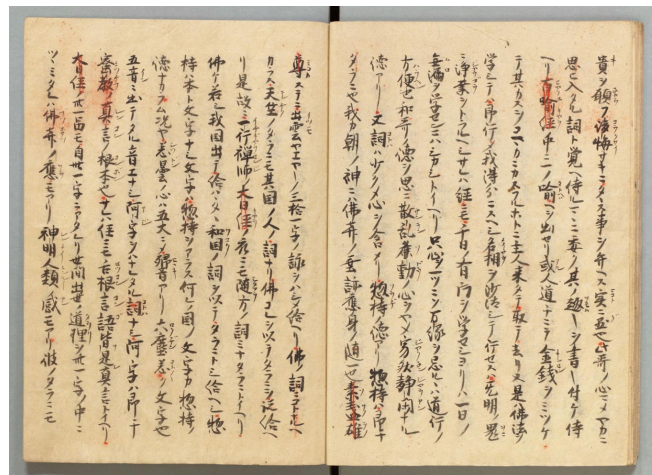
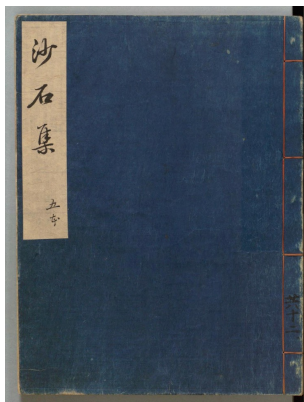
キーワード[歴史書, 和歌論, 言語認識, 仏教的世界観]

講師 石黒 志保



源通具 ほか『新古今和歌集』[2],
前川六左衛門[ほか2名],寛政11 [1799].
国立国会図書館デジタルコレクション
<https://dl.ndl.go.jp/pid/2567306> (参照 2023-11-30)

神祇歌



和歌の徳の甚深なる事

研究内容:

平安後期から鎌倉期にかけて、歌論書という和歌の定義、技法、理論や批評、そしてその歴史が語られた書物が多く生み出されました。それらは和歌そのものについて記されたものではありませんが、一方で、日本のことば(やまとことば)で詠われる和歌(うた)とはなにか、との認識をも内包していたものであったと考えています。

つまり、この国のことばとは何か、と歌論書において考察されていたのだと見ています。特に、勅撰和歌集『新古今和歌集』の歌人に焦点をあてて、その言説を読み解いています。天台宗の僧侶で歌人であった慈円(1155-1225)の言語認識に着目しています。慈円は、カナ書きで記した歴史書『愚管抄』、歌論書『拾玉集』を残していますが、そのなかで和語(やまとことば)とは何か、それで詠われる和歌の重要性を説いています。

さらに当時のことばは、中国(漢語)・インド(梵語)との対比で語られており、そこには仏教的世界観が反映されています。その世界観がいかに形成されていったか、鎌倉期の仏教説話集『沙石集』などから、その形成過程を論じています。

アピールポイント:

人文社会学部に所属しながら、本学のエクステンションサービス推進本部(YEX)で、社会人向けのリカレント教育の講座を企画しています。講座企画のご相談も随時お受けしています。

分野: 日本中世史
専門: 歴史書、和歌論、言語認識

E-mail : [ishiguro \[at\] human.kj.yamagata-u.ac.jp](mailto:ishiguro[at]human.kj.yamagata-u.ac.jp)
TEL : 023-628-4779 (YEX直通)



YEX HP